

MEDIA ADVISORY 【取材案内】

NPO法人SC軽井沢クラブ
2025年4月28日

報道関係者各位

「軽井沢スポーツ祭2025」 イベントご取材に関するご案内

時下ますますご清祥の事とお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
NPO法人SC軽井沢クラブが運営する軽井沢子ども未来基金は、軽井沢の子どもたちにスポーツや文化の体験機会を提供し、心と身体を健やかに育み「生きる力」を養成することを目指しています。

また、経験の格差をなくし、多様な選択肢を提供することを重視し、「軽井沢スポーツ祭」を通じて子どもたちに社会参加の機会を与え、地域の子どもたちにスポーツ・文化体験の場を提供します。

2024年に初回のイベントを開催し、数多くのアスリートの方々をお招きして軽井沢の子どもたちに競技体験や運動会企画を通じて触れ合ってもらいました。また、アスリートの皆さんに軽井沢町内の児童養護施設に往訪頂き、そこで暮らす子どもたちと触れ合い、施設で暮らす子どもたちの姿をご覧いただきました。

本年度も2日間にわたって開催。1日目は軽井沢町内の児童養護施設の子どもたちを招いた交流会、2日目には軽井沢町の子どもたちを対象とした競技・文化体験を実施いたします。

前回の実施概要のご案内に加え、スケジュールの詳細と本イベント開催に向けた主催・ゲストさまからのコメントを頂戴いたしましたので、併せてご案内させていただきます。

ご多忙中のころかと存じますが、さまざまな競技のアスリートが一同に介する貴重な機会となりますのでぜひ、ご取材頂けますと幸いです。何卒、宜しくお願い致します。

お問合せ先 mail: karuizawafes@sports-biz.co.jp

■イベント名: 軽井沢スポーツ祭2025

■日 時: 2025年5月17日(土) ※取材不可／事後リリースにて情報共有予定

2025年5月18日(日) イベント本編 9:00～12:40頃終了
終了後公開囲み記者会見 12:45目途～13:10頃まで
メディア受付は8:00～開始 (アイスパーク前総合受付にて)

■会 場: 軽井沢風越公園 (グラウンド・アイスパーク・総合体育館)
(住所: 長野県北佐久郡軽井沢町大字発地1157-6)

■主 催: NPO法人SC軽井沢クラブ 軽井沢子ども未来基金

■特別協賛: OBI HOLDINGS PTE LTD

■協 力: 信濃毎日新聞社

■後 援: 軽井沢町、軽井沢町教育委員会、軽井沢町スポーツ協会
一般社団法人軽井沢観光協会、一般財団法人長野県児童養護施設連盟

■ゲ ス ト: 松坂大輔、岩隈久志、糸井嘉男、山口俊、今成亮太
※敬称略 前園真聖、坪井慶介、巻誠一郎、澤穂希、岩渕真奈
竹下佳江、荒木絵里香
登坂絵莉、鏡優翔
山口剛史、カーリングSC軽井沢クラブ
上重聡(総合司会)

本年度の軽井沢スポーツ祭2025実施にあたり、関係者ならびに活動に賛同頂きゲストとしてご参加頂くアスリートの皆さまに本イベントに対する想いや意気込みをお伺いいたしました。



主催 特定非営利活動法人

スポーツコミュニティ軽井沢クラブ理事長 尾沼好博

昨年の「軽井沢スポーツ祭」は好評で、多くの子どもたちがスポーツや文化体験を通じて交流しました。賛同いただいている関係各所の皆さまのおかげで、今年も第二回の開催ができることを嬉しく思います。

昨年の開催を通じて子どもたちが大きく成長する姿が見られ、私たちにとっても感動的な経験となりました。例えば、挨拶をするようになったり、新しいスポーツを始める子もいました。これは、何かを体験する機会が、子どもたちにとって非常に重要な影響を与えることを示していると身をもって実感しました。

本イベントは、軽井沢子ども未来基金の理念に基づき、子どもたちの「生きる力」を育むことを掲げています。軽井沢発の取り組みを全国的なモデルケースとすることを目指し、今後も子どもたちの成長を支援していきます。



特別協賛 OBI HOLDINGS PTE LTD

代表 永山 要

昨年初めて開催いたしました本イベントには、地域の多くの子どもたちにご参加いただき、スポーツや文化体験を通じた貴重な交流の場として、大変ご好評をいただきました。

その成果を受け、本年はより多くの子どもたちに参加の機会を提供したいという想いから、第二回目の開催を決定いたしました。

本スポーツ祭りが、軽井沢子ども未来基金の理念である、

子どもたち一人ひとりの「生きる力」を育むきっかけとなることを、心より願っております。

今後とも、地域社会全体で子どもたちの健やかな成長と未来を支える支援を継続してまいります。



松坂大輔(野球) ※2回目の参加

昨年の軽井沢スポーツ祭で“野球”を通じた子供たちとのふれあいがとても楽しく印象的で今年も参加させていただく事となりました。

今回は、児童養護施設の子供たちとの交流会にも参加させていただく予定です。野球含め様々な競技のアスリートの皆さんと共に、未来ある子供たちとの時間を今から楽しみにしています！



前園真聖(サッカー) ※2回目の参加

軽井沢の子どもたちと過ごした楽しい時間がとても印象的で、主催者の思いや活動に私も共感し今年も参加させていただく事となりました。

昨年訪問した児童養護施設の子どもたちや軽井沢の子どもたちとまた一緒にサッカーができるのを今からとても楽しみにしています！



竹下佳江(バレーボール) ※初参加

今回、「軽井沢スポーツ祭」への参加のお話を頂いた際、

本イベントで軽井沢の子どもたちへのスポーツや文化体験の機会を提供したいという主催の皆さんの想いの中でバレーボールが新しく競技体験に加わる事ができ、そして競技を代表して参加させていただけることを大変嬉しく思っています。

子供たちやアスリートゲストの皆さんと共に楽しみながら、バレーボールの魅力も伝えられる有意義な時間を過ごしたいと思います。

■ 内 容:

●第一日目 2025年5月17日(土) 軽井沢町児童養護施設、NPO団体招待者むけイベント

対象:主催が招待する軽井沢町内児童養護施設で生活する児童・生徒
主催等が招待するNPO団体経由での子どもたちならびにその家族
内容:ゲストアスリートと子どもたちによるスポーツ交流イベント

※本イベントはクロージングイベントとして実施いたします。
イベントより、後日イベントレポートとして事後リリースを公開(予定)致します。

●第二日目 2025年5月18日(日) 軽井沢町の子どもたちを対象としたスポーツイベント

★9:00～オープニングイベント

- ・オープニングセレモニー
- ・地元チアリーディングチームによるパフォーマンス 等

★9:40～11:30 体験教室開催

<グラウンド>

- ・サッカー教室 (参加者:100名程度)
- ・野球教室 (参加者: 80名程度)

<総合体育館(メインアリーナ)>

- ・バレーボール教室 (参加者:60名程度)
- ・レスリング教室 (参加者:20名程度)

<アイスパーク>

- ・カーリング教室 (参加者:40名程度)



※体験会時間中は自由に競技を回っていただけます。
参加者(保護者)へのご取材は競技体験に影響のない
範囲であれば、各メディアさま側より希望者に確認の上ご取材頂けます。
イベント実施中の個別ゲスト取材は進行の妨げになるため実施いただけません・

★11:40～12:15頃 交流運動会

- ・参加者とゲストアスリートによる綱引き大会

★12:15～12:40頃 記念写真撮影・クロージングイベント

- ・参加者全員による記念写真撮影
- ・こども新聞記者による公開インタビュー
- ・クロージングセレモニー

★12:45～13:10頃 目安

- ・ゲストアスリートならびに関係者登壇による公開囲み取材
※イベント終了後のグラウンドステージにて実施致します。
参加者さまたちにも貴重な機会なので、自由に見学できる形を想定しております。
登壇者:軽井沢スポーツ祭2025 主催・共催・ゲストアスリート15名(予定)
取材時間:25分
※登壇時以外のゲストへの取材、並びに当日個別取材の取材はできません。
※本件に関する事前事後の個別取材に関しては、別途お問合せ下さい。



松坂大輔

甲子園でのノーヒットノーランで注目を浴び、1998年に西武ライオンズに入団。国際舞台でも活躍し、2006年ボストン・レッドソックスとの契約後はワールドシリーズ制覇に貢献。ケガを乗り越えてメジャー、日本球界での復帰後も輝き、2021年に現役を引退。



岩隈久志 ※初参加

1999年大阪近鉄バファローズに入団し、2003年にはチーム最多となる15勝を挙げ、チームのエースに定着。その後も最多勝利、沢村賞など数々の投手関連の主要タイトルを独占、アテネ五輪野球日本代表にも選出され、2009年にはWBC日本代表に選出された。2012年、シアトルマリナーズと契約を交わし、2014年にオールスターに初選出、自身最多の15勝を挙げるとともに2015年には日本人2人目のノーヒットノーランを達成。2019年、読売ジャイアンツに加入し、2020年に現役を引退。



糸井嘉男

2004年に北海道日本ハムファイターズに入団後、数々の賞を獲得し、さらにWBC日本代表などで活躍。2009年からプロ野球史上初の打率三割、20盗塁、ゴールデングラブ賞を6年連続で達成・獲得するなど、その身体能力の高さから「超人」の愛称で親しまれ、2022年に現役を引退した。



山口俊

2005年に横浜(現DeNA)に入団し、その後読売ジャイアンツに移籍。2018年には史上79人目のノーヒットノーランを達成し、2019年には最多勝利や最多三振、最高勝率を獲得して活躍。その後、ブルージェイズに入団。日本球界復帰後、2023年に引退。四股を踏むパフォーマンスなどでファンに愛された。



今成亮太

北海道日本ハムファイターズ(2008年~2011年)と阪神タイガース(2012年~2016年)で、ユーティリティープレーヤーとして活躍。現役時代から盛り上げ役として選手のモノマネをするなど球場を盛り上げていた。現在はスポーツコメンテーターとして野球解説やスポーツコーナーを担当しながら、子どもたちに野球を教えるスポーツアカデミーを運営するなど経営者の一面ももち野球振興に努めている。



前園真聖

1992年Jリーグの横浜フリューゲルスに入団。1996年のアトランタオリンピックでは日本代表のキャプテンとして活躍し、「マイアミの奇跡」などで注目を集める。その後、海外クラブでプレーし、2005年に現役引退。解説者としても活躍しながら、ZONOサッカースクールを主催し、普及活動を行う。2009年にビーチサッカー日本代表に復帰し、W杯でベスト8に貢献。現在はメディア出演やサッカースクール、講演会などを通じて、子供たちにサッカーの楽しさを伝える活動を行っている。



坪井慶介

2002年に浦和レッズに入団。ルーキーイヤーからディフェンスの要として活躍し、新人王やフェアプレイ賞を受賞。2003年には日本代表初招集、Jリーグベストイレブン入りも果たす。2006年のドイツワールドカップでも主軸として活躍。2015年に湘南ベルマーレに移籍し、その後レノファ山口でプレー。2019年に現役引退後は、サッカー教室や解説者として活動しつつ、タレントとしても活躍している。



巻誠一郎

駒沢大学を卒業後、プロサッカー選手として活躍し、2018年に現役を引退。2019年にJリーグ功労選手賞を受賞し、2022年には日本サッカー協会の復興支援委員長に就任。熊本地震復興支援活動や様々な社会貢献活動に取り組み、サッカースクールやNPO法人の設立、社外取締役就任など、リーダーシップを発揮している。



澤穂希

15歳で日本代表に初招集される。2011年には女子W杯ドイツ大会でキャプテンとしてチームの初優勝に貢献し、大会MVPと得点王に輝き、FIFA女子年間最優秀選手賞を受賞。2012年のロンドン五輪では銀メダルを獲得。2015年に結婚し、同年12月に現役を引退。現在は1児の母。



岩渕真奈

日テレ・メニーナ、日テレ・ベレーザでプレー後、ドイツの女子ブンデスリーガに移籍し、バイエルン・ミュンヘンでリーグ2連覇を達成。その後、INAC神戸レオネッサ、アーセナル・ウィメンFC、トッテナム・ホットスパーFCウィメンなどでプレー。日本代表として2011年W杯優勝、ロンドン五輪準優勝にも貢献。2023年に引退を発表。現在はメディア出演や女子サッカーの普及、育成などで活動中。



竹下佳江 ※初参加

元全日本女子バレーボール代表”世界最小最強セッター”として世界が恐れる日本の司令塔。高校卒業後実業団入り、1997年に全日本デビュー。シドニー五輪出場を逃し一度は引退。復帰後、全日本主将も務め、五輪3大会出場。2012年、「第30回オリンピック競技大会(ロンドン)」で銅メダル獲得に貢献。2013年に現役を引退。結婚・出産を経て、現在はヴィクトリーナ姫路のエグゼクティブアドバイザーとしてバレーボール教室や解説者としても活躍中。バレーボールの普及活動に力を注いでいる。



荒木絵里香 ※初参加

186cmの長身を生かしてミドルブロッカーとして活躍。成徳学園(現・下北沢成徳)時代には高校3冠を達成した。全日本では2008年北京、12年ロンドン、16年リオデジャネイロ、20年東京(コロナ禍の影響で21年開催)と4大会連続で五輪に出場。ロンドン五輪では主将として銅メダルを獲得した。2014年第一子出産後、競技復帰を果たし、東京五輪で選手生活を引退。現在はクインシーズ刈谷チームコーディネーター、バレーボールの普及活動や強化、JOC理事、アスリート委員、講演など様々なフィールドで活躍の場を広げている。



登坂絵莉

9歳でレスリングを始め、至学館高校に進学。2013年から15年まで女子レスリング48kg級で世界選手権3連覇。2016年のリオオリンピックで金メダル獲得。2020年に結婚、2021年に男児を出産。2022年に現役引退後は、メディアやイベント出演、講演活動などで活躍中。2023年に一般社団法人「スマイルコンパス」を設立し、代表理事として子供たちへスポーツの楽しさを伝える活動を行っている。



鏡優翔 ※初参加

栃木・サンダーキッズ時代に全国少年少女選手権5度優勝。中学3年で上京し、JOCエリートアカデミーに入校。帝京高校に進学し、インターハイ3連覇を達成。2020年に東洋大学へ進学し、全日本レスリング選手権大会で2連覇を達成し、アジア選手権で2位入賞。2022年に出場した世界選手権では2位に入賞し、翌2023年の世界選手権で初優勝。パリ2024オリンピック競技大会では、日本初の快挙となる女子最重量級でオリンピックの金メダルを獲得。



山口剛史

2018年には20年ぶりの五輪出場を果たした。彼は日本選手権で10回優勝し、世界選手権では最高順位4位を記録。また、日本ミックスダブルス選手権では3回優勝し、世界ミックスダブルス選手権でも最高5位。2025年2月に行われた日本カーリング選手権大会横浜2025ではSC軽井沢クラブのメンバーとして優勝に貢献した。



カーリングSC軽井沢クラブ

専任コーチ一貫指導のもと、トップチームがジュニアを指導、そのジュニアがトップチームになり、またジュニアを指導していくという地域スポーツの好循環を作り、本クラブチームを牽引していきながら、恒常的に世界で活躍できるチームの輩出を目指す。

※参加予定選手※

(男子チーム)

柳澤 李空／山本 遵／小泉 聡

(女子チーム)

上野 美優／金井 亜翠香／西室 淳子／上野 結生



上重聡 (総合司会)

1980年生まれの大阪府八尾市出身。PL学園高校、立教大学コミュニティ福祉学部卒業。料理、野球、ゴルフが特技。野球では高校や大学で著名な成績を残し、東京六大学野球史上2人目の完全試合を達成。2003年に日本テレビ入社し、2024年3月末に退社。スポーツ実況ではプロ野球中継や箱根駅伝、冬季北京五輪などを担当した。

おそれいりますが5月14日（水）15時までにご返信ください

【回答方法】

WEBフォーム : <https://forms.gle/gyCNFBXBLXmfSjmn8>

E-MAIL : karuizawafes@sports-biz.co.jp

FAX : 03-5537-8461

MEDIA ADVISORY

【取材申込書】

5月18日（日）「軽井沢スポーツ祭2025」

媒体名 (番組名／掲載紙面)	
貴社名	
部署名	
代表者氏名	
代表者携帯	
代表者メール	
ご帯同者氏名 (全員分)	
撮影	☐ ムービー（ENG／デジタル） 台 ☐ スチール 台 ☐ スチール記者カメ 台
囲み取材参加	☐ 希望する ☐ 希望しない
駐車場の利用	☐ 希望する ☐ 希望しない

※1媒体につき1台迄。スペースの都合上、近隣駐車場をご相談する場合もございます。

※運営の都合上、特定のゲストへの個別取材は対応できません。予めご容赦ください。

※前回の第一報にてご取材依頼のお申込みを頂きました媒体さまの再度の申請は不要です。